

【解題】 パルクールという文化  
：注がれるまなざしと今日的課題

The Culture of Parkour: Focus and Current Issues

塩見 俊一\*

キーワード：パークール、都市空間、教育、子ども、競技化

本特集の巻頭言にも述べたが、私たちアーバンスポーツ研究会は、2020年度より立命館大学人文科学研究所の「人文科学研究所助成プログラム」に採択され、スケートボードやパークールといったアーバンスポーツと都市の景観開発、都市政策、観光政策をめぐる社会学的研究の推進を目的とし、活動している。

近年アーバンスポーツは、観光・都市開発、そして「近代スポーツ」と結びつき、新たな消費需要を喚起するコンテンツとして関心を集めている。それに伴い、これまでアーバンスポーツに向けられてきた「まなざし」にも変化の兆しがみられる。

たとえば「近代スポーツ」との関わりでいえば、今年行われた2020東京オリンピックで公式競技として採用されたスケートボードで、男女ともに日本代表選手が金メダルを獲得したことは記憶に新しい。またメダリストのみならず、選手同士が互いに健闘を讃え合う姿は、多くの人々を感動させた。まさに、オリンピックのスケートボードは「公道でルールを無視して行われる危ないもの」「やんちゃな男の子がするもの」「そもそも、スケートボード

\*立命館大学非常勤講師

はスポーツなのか？」といった、これまでのスケートボードへの疑問や「まなざし」を一瞬にして吹き飛ばしてしまった感—もちろん、このような変化に対する分析は必要であろう—もある。

さて、本解題の目的は、2021年3月10日に本研究会が主催したワークショップ「パルクールの実践と研究：最先端の身体文化/スポーツの発展と理解を目指して」をふり返り、主に質疑応答で交わされた意見をもとに、ワークショップが浮き彫りにしたパルクールが抱える課題を紹介することにある。

パルクール (Parkour) は、先述したスケートボードより新しい身体文化といえる。そのルーツは20世紀初頭にまで遡ることができるが、パルクールがTVCMや映画を通じてメインストリームの文化に影響を与えるようになったのは、主に2000年代以降である。なお、パルクールの誕生と発展の系譜については、平石貴士氏の講演録をご参照いただきたい。

しかし日本においてはパルクールの認知は低く、未だ「知る人ぞ知る」ものにとどまっている。そしてその「知る人ぞ知るという認知に問題がある」と石沢憲哉氏は指摘する。石沢氏によると、パルクールの高度なテクニックに裏づけられたトリック (技) を繰り出すパフォーマンス、という面が強く印象付けられることにより、気軽にパルクールをやってみたいというニーズやそれを実現する機会が奪われ、適切な愛好者の拡がりやパルクール文化の理解が進まないという。石沢氏はこの事態を打開するためにも、パルクールを地域課題と結びつけたアプローチの必要性、とりわけ「教育」とパルクールの結びつきが重要であるという。

これはなにも「体育」という教科教育や部活動にパルクールを導入するというのではない。むしろ石沢氏が強調するのは、パルクール文化そのものが、単なる身体的な運動には止まらない「教育」という要素を含んでいる、ということである。この点は、住田翔子氏がパルクールと実践の場である都市空間の関係について、ポピュラーカルチャー研究も援用しながら、空間の

解釈や意味付与、また認知等の側面から検討した。なかでも、「パークールのような身体で都市に触れるという行為は、都市という空間を自分のものに転用するという、人びとの空間経験の変化をもたらし得る」という住田氏の指摘は、パークールと「教育」との関わりを検討するうえで、示唆に富んでいる。このような経験が都市空間の具体的な改変や政策に結びつくことは限定的だが、各々が空間との関係において多様な自己を「実感」する機会が広がることは、「教育」ともいい得るだろう。

質疑応答で登壇者が意見を補足し、フロアを交えて議論をするなかで、「都市との関係（危険性や都市空間の再解釈の可能性）」「(近代的な)教育との関わりやその困難」「子どもによる実施と競技化の方向性」「子どもの健康を守る地域づくり」など、パークールの理解に関わる多様な論点が提示された。とりわけ、本来、空間上のある地点から別の地点への自由な移動—ときには通常では考えられない手段を用いて—を实践するパークールが、「教育」、子ども、遊び/遊戯性、競技性と関わりながら、近代スポーツ的な価値とどのような関係を切り結びうるのかという点は、参加者の関心を集めた。

最後に、改めて、本ワークショップの開催は、立命館大学人文科学研究所の運営に携わる教職員の方々の献身的なサポートなくして実現されることはなかった。この場を借りて、心より感謝申し上げる。

